

令和2年度 佐和山城跡発掘調査成果

1. 佐和山城跡とは—遺跡の概要（図1・表1）

遺跡の位置 佐和山城跡は彦根市北端に位置し、南北約4kmにわたって連なる佐和山丘陵の中央部に所在します。東側には近世の朝鮮人街道（下街道）と近世中山道（東山道）が通過・合流し、西側には松原内湖・琵琶湖をひかえた水陸交通の要衝でした。また、約1.5km南西には特別史跡彦根城跡が位置しています。

城の歴史 佐和山城は石田三成の居城としてよく知られていますが、その歴史は古く鎌倉時代に遡るとされています。戦国時代には北近江の京極氏（のちに浅井氏）と南近江の六角氏との勢力の境目に位置したことから、「境目の城」として抗争の最前線となりました。その後、佐和山城は織田信長の勢力下におかれ、信長の重臣・丹羽長秀が入城します。続く豊臣秀吉の時代には、堀秀政、堀尾吉晴、石田三成と城主は目まぐるしく替わりますが、これまでの調査成果から城下町は豊臣期には成立していたと考えられます。文禄4年（1595）に三成が北近江四郡を領国とする大名になるとともに佐和山城主となると、佐和山城および城下町を拡張整備したと考えられています。慶長5年（1600）に関ヶ原の戦いで三成が敗れると、慶長6年（1601）に徳川家康の家臣・井伊直政が入城しますが、慶長8年（1603）に彦根城築城を開始し、居城を移したことにともなうて、佐和山城は廃城となりました。

2. なぜ調査したのか—既往の調査状況と調査に到る経緯（図2）

既往の調査状況 佐和山城跡では、これまでに彦根市教育委員会、滋賀県教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会によって各所で発掘調査が継続して実施されてきました。

調査に到る経緯 このたび、埋蔵文化財包蔵地である佐和山城跡の範囲内において、国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所により一般国道8号米原バイパス工事が計画されました。そのため、滋賀県が調査主体となり、公益財団法人滋賀県文化財保護協会を調査機関として、工事によって影響を受ける範囲を対象とした発掘調査に平成30年度から着手しました。今年度は、5,534㎡を調査対象としており、現在も調査を継続中です。

3. 今回の調査の成果（図3・4）

調査成果の要約 一昨年度から現在にいたる調査の結果、内堀や土塁をはじめ、建物跡・井戸等といった城下町に関連する遺構を検出したほか、それらに伴ってさまざまな遺物が出土しました。とくに、本年度の調査では、城下町域において城下町の幹線道路（「本町筋」）の痕跡を検出するとともに、これまでの調査成果と合わせて考えることで、「本町筋」沿いに町屋が展開する状況を確認しました。こうした成果から城下町の都市設計のあり方を解明する手がかりを得ることができました。

城下町の構造 佐和山城跡は、現在認識されている城郭関連遺構のあり方から、山上曲輪群・山麓曲輪群・城下町の3つの区域に大別されています（図1・2）。平成30年度より、現在の国道8号から北西方向へのびるバイパス用地内の調査を進めていますが、このバイパス用地の大半は城下町域に含まれます。具体的には、佐和山丘陵東麓に展開した山麓曲輪群を取り囲む土塁・内堀（現在の西法寺川）と、外堀（現在の小野川）に挟まれたエリアに相当します。

古絵図（江戸時代）等によると、この内堀と外堀の間のエリアには、南北方向の道路（「本町筋」）

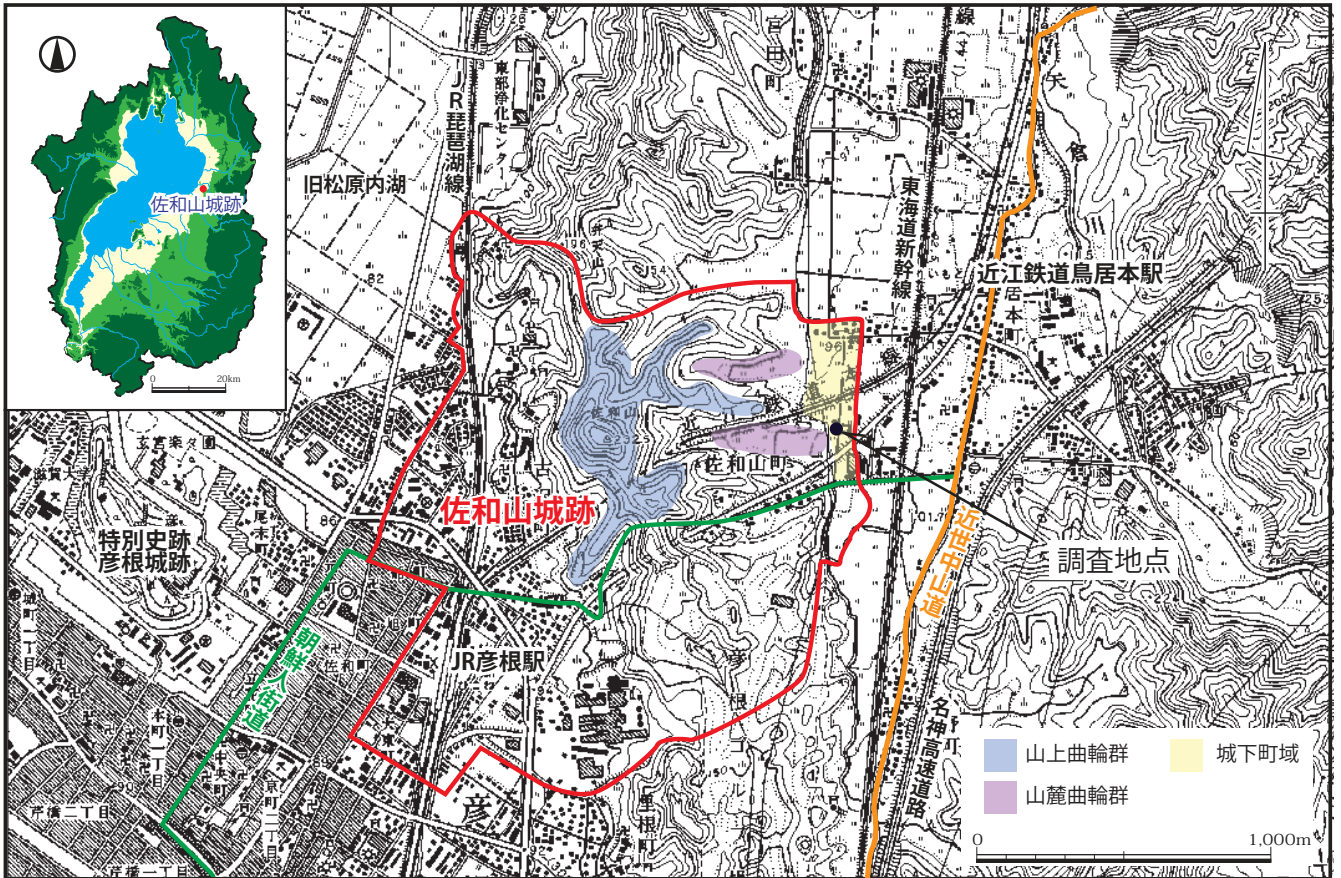


図1 佐和山城跡の範囲（赤枠）と調査地点の位置（黒塗）

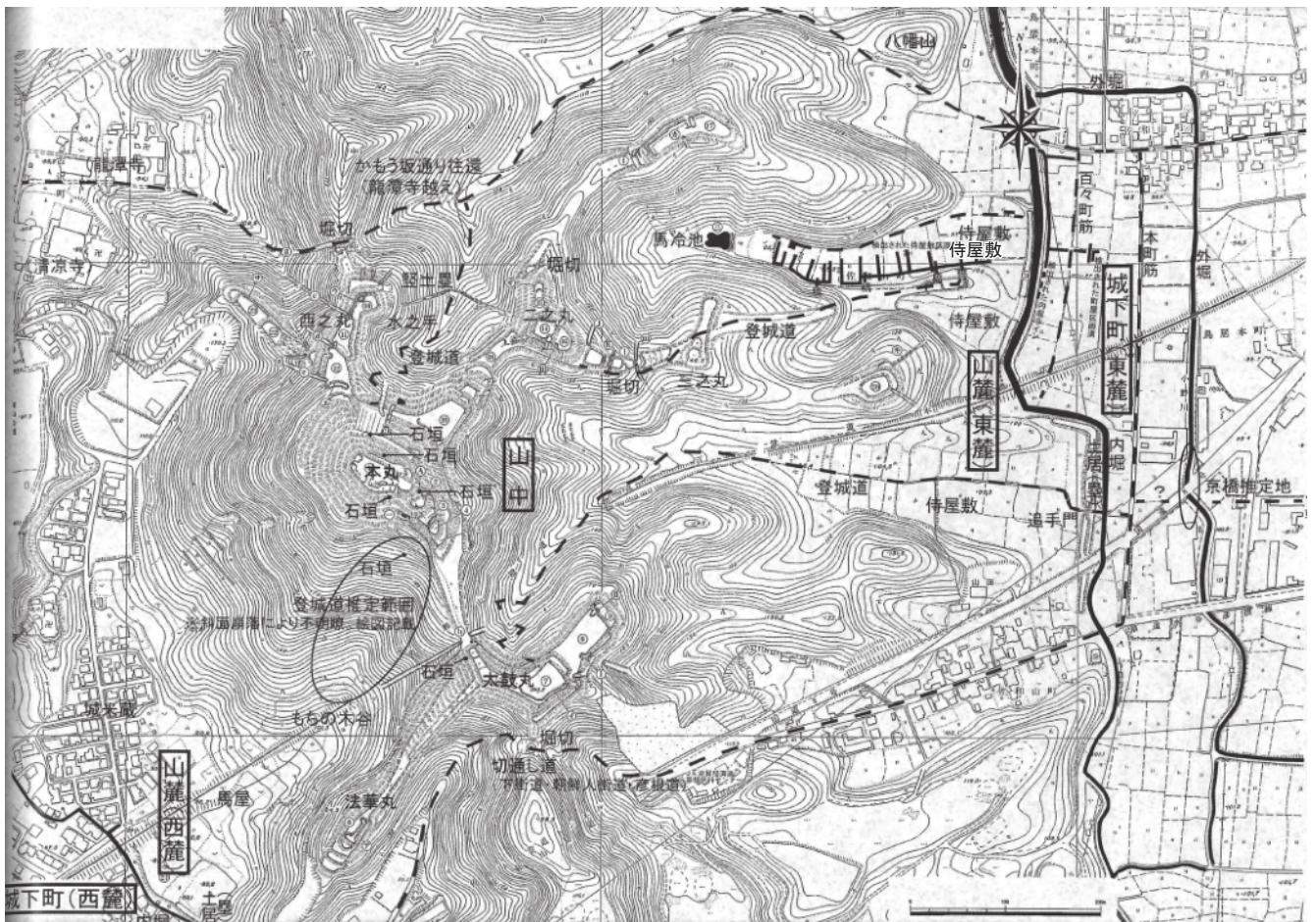


図2 佐和山城と城下町の推定復元

（下高大輔「佐和山城形成過程考—佐和山城大改修と豊臣政権—」『淡海文化財論叢第八輯』淡海文化財論叢刊行会、2016）

が通っていたことが分かっています。ちなみに、この「本町筋」は、現在の市道に踏襲されていると考えられます。また、「本町筋」は、本丸から続く大手道と合流するとともに、その両側（東西）に町屋が展開していたとされ、いふなれば城下町のメインストリートといえます。さらに、「本町筋」は、その南北で東側の近世中山道と接続していたとみる意見があります。また、水田の畔等の地表に残された地割に基づいて、本町筋の西側に平行する2本の南北道路を想定する意見があり、昨年度の発掘調査でそれらの道路の痕跡を確認しています。

検出遺構・出土遺物 今年度は、「七曲がり」と呼ばれる谷部および佐和山城大手口付近の城下町域(図3)で調査を行っています。

まず、「七曲がり」については城下町域外とされる地点ですが、掘立柱建物・区画溝・土坑・ピット等の諸遺構を検出しました。また、それらに伴って土師器・陶磁器類等の遺物が出土しました。出土遺物の時期は16世紀前半を中心としており、城下町成立以前の戦国期の人々の生活痕跡として注目されます。

そして、城下町域内にあたる今回の公開箇所では掘立柱建物・土坑・道路遺構等を検出するとともに少量ではありますが、16世紀末ごろの陶磁器類・瓦が出土しています。

【道路遺構について(写真1~4)】 検出遺構のなかで特に注目されるのは「本町筋」の痕跡と考えられる道路遺構です。以下、詳細を説明します・

○**盛土と硬化面** 現在の市道直下約60cmのところ幅60~90cmの「本町筋」の痕跡と考えられる盛土および硬化面を南北約50mにわたって検出しました。道路を敷設するにあたり粘土を15~30cm盛った上から砂利を混ぜた土で締め固めて路面とおもわれる硬化面を形成しています。道路の側面は江戸時代以降、一帯が水田化された際に大きく削平を受けていることから、城下町期の道路幅は不明です。

○**石積み** 道路は後世の削平を受け当初の姿をとどめていませんが、道路西側では南北約25mにわたって道路に伴う石積みを検出しました。幅15~25cm程度、高さ5~15cm程度、奥行き20~30cm程度の石材を積み上げ道路側面を固めています。石材のほとんどは佐和山丘陵で産出するチャートです。この石積みについても後世の削平によって石材の大半が失われており、最も残りの良い部分で2段分が残存していました。石積み本来の高さは判然としないものの、硬化面の高さから考えると、本来はもう1~2段分の石材が積み上げられていたと考えられます。この石積みの性格についてですが、道路に直交する形で石積みの方向に向かって暗渠(あんきょ：地下に埋設された水路)の痕跡が見られることから、石組み側溝であったと推定されます。

また、石積みの崩落を防ぐため部分的に胴木(どうぎ)と呼ばれる土台木を設置している状況も確認されました。胴木には丸太材を用いており、その外側には等間隔で杭を打ち込み胴木がずれない工夫もなされています。織豊期の城郭石垣にはよくみられる構造ですが、同時期の城下町において見つかることは非常に稀であり貴重な成果といえます。

○**道路遺構の時期** この道路が敷設された時期についてですが、現状では十分に把握できていません。硬化面を形成する土層からは16世紀後葉の瀬戸美濃焼の播鉢片が出土しているため、その時期以降に道が敷設されたということは判明しています。16世紀後葉の佐和山城主を見ていくと、磯野員昌、丹羽長秀、堀秀政、堀尾吉晴、石田三成、井伊直政と目まぐるしく変遷しており、誰が城主の時代に道路が敷設されたのか、結論を得るにはさらなる検討が必要と言えます。

ただし、①今回検出した道路遺構(「本町筋」)は城下町の基幹となる道路であるため、城下町建設に先立ち敷設されたと考えられること、②天正年間のはじめには織田氏関連の城郭石垣に胴木工法が見受けられることから、織田信長の勢力下にあった段階に敷設された可能性が十分に想定されます。よって、早くみれば丹羽長秀が城主であった時期に道路が敷設されたということができ、豊臣期以前の佐和山城下の様相を明らかにする上で重要な手がかりになるものと考えられます。なお、天正期(1573~1592年)の道路遺構は駿府城跡(静岡市)などで確認されています。

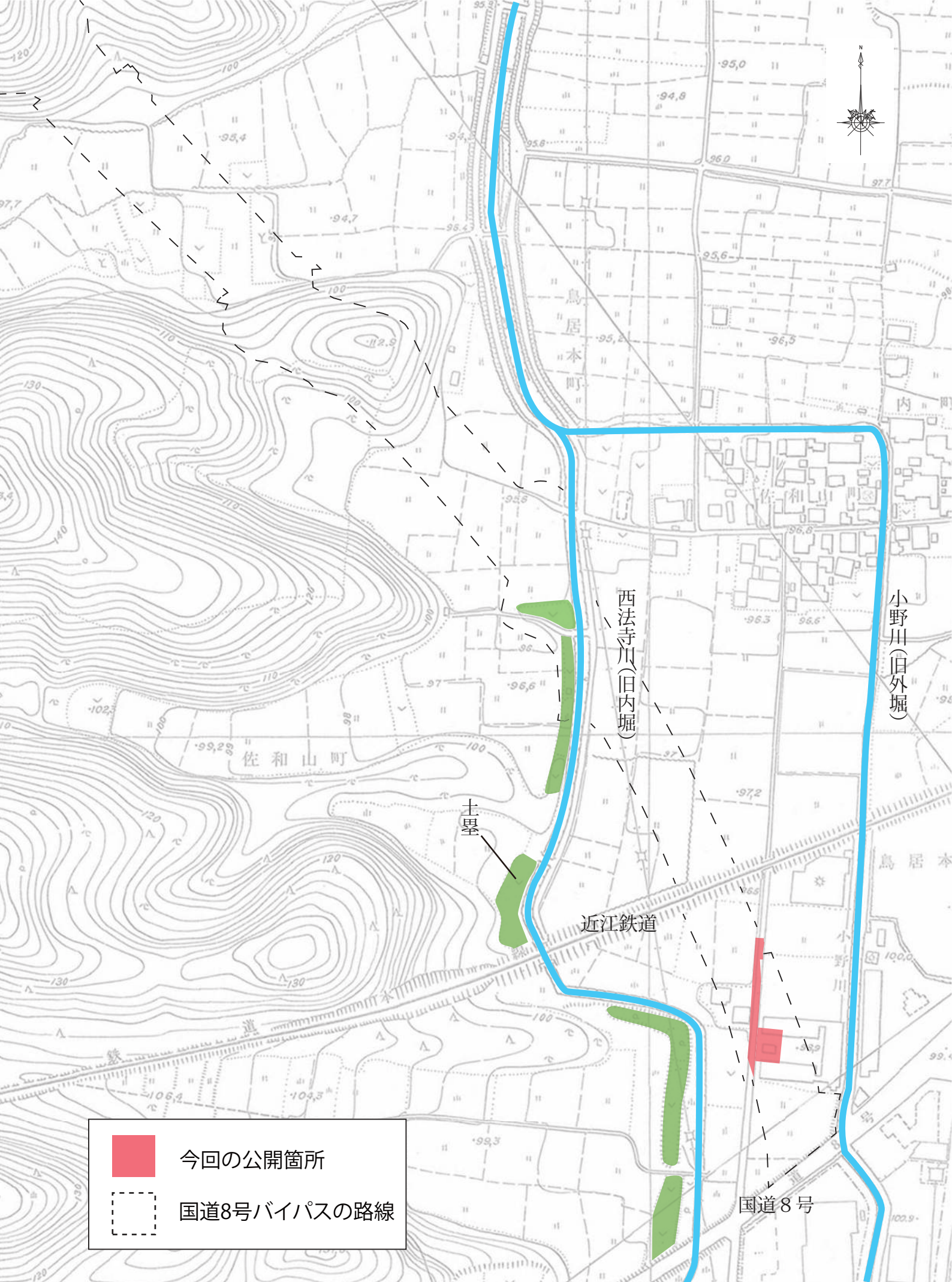


図3 調査地の位置

4. まとめ

今回の調査成果を箇条書きにしてまとめておきます。

- ①大手口の付近の調査で城下町の幹線道路である「本町筋」の遺構を確認しました。
- ②この道路遺構は粘土を盛った上から、砂利を混ぜた土で締め固めて路面を形成していることがわかりました。
- ③道路に伴う石積みを確認され、部分的に城郭石垣に見られる胴木工法が採用されていることを確認しました。この石積みは石組みの側溝であったと考えられます。
- ④昨年度までの調査成果と合わせて考えることで、「本町筋」沿いに町屋が立ち並んでいた状況が判明しました。

今回見つかった道路遺構がどの城主の段階の城下町整備・改変と対応するのかという点が今後の検討課題となります。

表1 16世紀後葉以降の佐和山城主

城主	期間	備考
磯野員正	?～元亀2年(1571)	浅井氏家臣、織田信長に降伏
丹羽長秀	元亀2年(1571)～天正10年(1582)	信長上洛時の宿所としても機能
堀秀政	天正10年(1582)～天正13年(1585)	清洲会議の結果、城主に
堀尾吉晴	天正13年(1585)～天正19年(1591)	豊臣秀次の宿老
(豊臣家蔵入地)	天正19年(1591)～文禄4年(1595)	秀次移封に伴い秀吉直轄地に
石田三成	文禄4年(1595)～慶長5年(1600)	城・城下町の大規模改修
石川康通など	慶長5年(1600)～慶長6年(1601)	落城後の城番
井伊直政	慶長6年(1601)～慶長7年(1602)	石田三成の旧領を拝領
井伊直継	慶長7年(1602)～慶長9年(1604)	直政の死去に伴い城主に

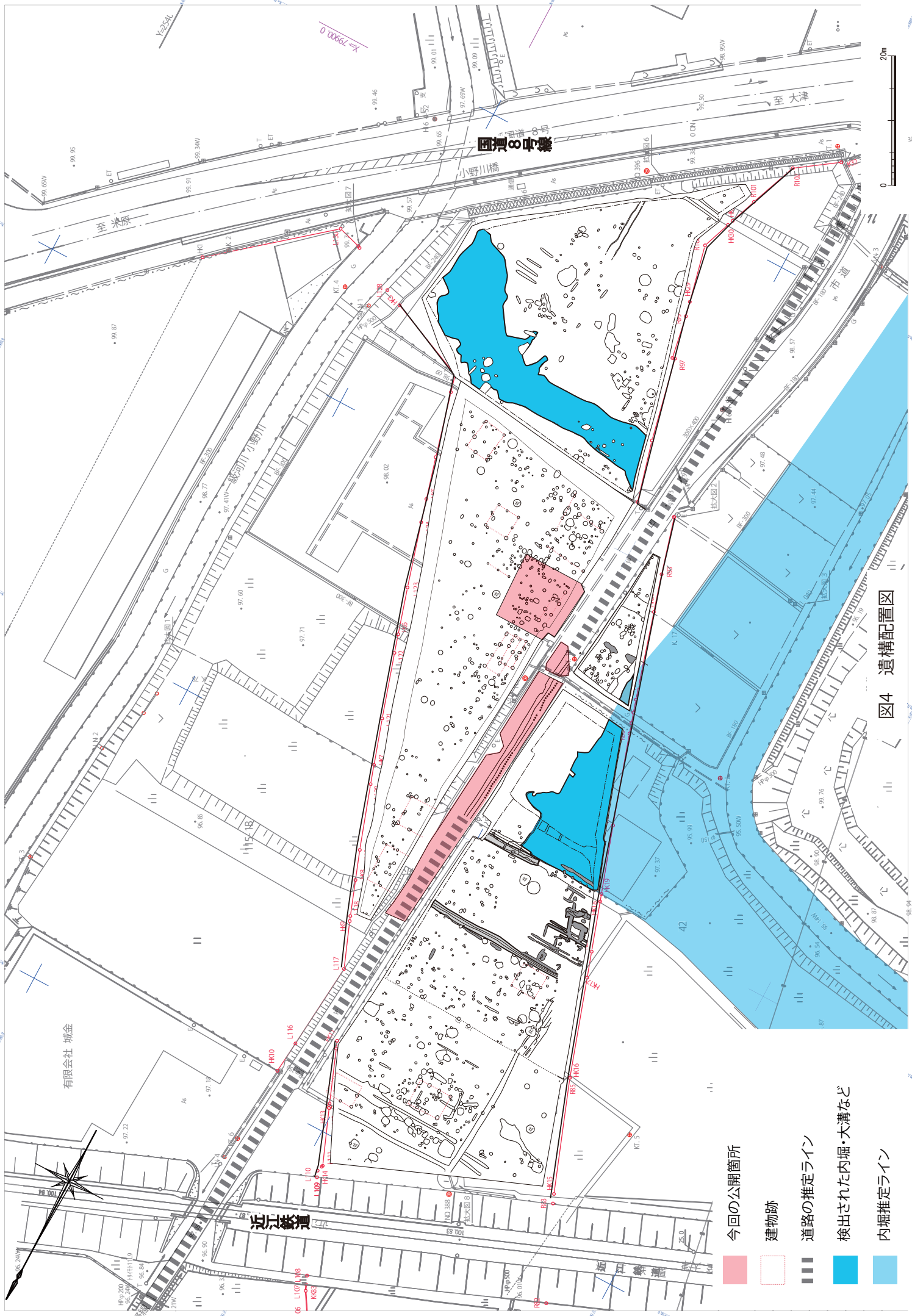


図4 遺構配置図

- 今回の公開箇所
- 建物跡
- 道路の推定ライン
- 検出された内堀・大溝など
- 内堀推定ライン



写真1. 道路遺構検出状況（北から）



写真2. 道路遺構検出状況 北半（南から）



写真3. 道路遺構検出状況 南半（北から）



写真4. 石積および胴木検出状況（南西から）